



中部自販が太陽光発電事業に参入 5カ所に発電施設、3月末までに稼働

中部自動車販売(中部自販、横手弘之社長)は、このほど太陽光発電事業に参入すると発表した。12月中旬からソーラーパネルの設置に乗り出し、来年3月末までに出力計5300キロワットの発電施設を稼働する。

太陽光発電は、太陽の光エネルギーを電気エネルギーに変換する発電方式。日本では原発事故以降、太陽光発電事業の普及・促進に取り組んでおり、今年7月には国が定めた価格で電力会社が電力を買取る固定価格買取制度(FiT)も導入され、新規参入が相次い

でいる。

中部自販では、発電事業を開始するにあたって、まずはグループの既存施設を有効活用。群馬県高崎市の大型小売り拠点「BCN高崎」、埼玉県深谷市の「BCNオークション」の建物屋上にソーラーパネルを設置する。

さらに、栃木県足利市、宮崎県小林市、大分県杵築市で新たに土地を確保。この3カ所では、すでに発電施設の建設工事に着工しており、来年3月末までには計5カ所で稼働する。投資総額は約20億円。



宮崎県小林市では
9290坪を造成中

なお、年間発電量は計588万5000キロワットアワーと試算しており、一般家庭の年間消費量に換算すると1700戸分に相当するという。発電した電気については100%売電する考えで、FITによる買取価格は1キロワットアワーあたり42円(税込)。試算通りの電力量が確保できた場合、年間売電価格は2億4717万円(同)となる。

一方、同社では、来年度以降についても太陽光発電事業を積極的に推進し

ていく方針。

現在、日照条件に恵まれた地域を対象に10数件のプロジェクトが進行中で、約30億円程度の投資を見込んでいる。

「電力の安定供給に寄与することは、国民生活を支えていく事業になりうる。さらに、電気自動車、スマートモビリティなどの普及が進む自動車社会の成長に少しでも役立ちたい」(中部自販)。



BCN高崎(左)とBCNオークションでは建物屋上にソーラーパネルを設置する